



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月24日

上場会社名 株式会社システナ 上場取引所 東
 コード番号 2317 URL <https://www.systema.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三浦 賢治
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 甲斐 隆文 TEL 03-6367-3840
 四半期報告書提出予定日 2019年11月6日 配当支払開始予定日 2019年12月3日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	31,411	15.4	4,109	27.0	3,961	26.5	2,680	27.9
2019年3月期第2四半期	27,210	8.2	3,235	49.2	3,131	44.4	2,096	36.8

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 2,583百万円 (22.3%) 2019年3月期第2四半期 2,111百万円 (35.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	27.48	—
2019年3月期第2四半期	21.49	—

(注) 当社は、2018年6月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。1株当たり四半期純利益につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に実施されたと仮定し算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	33,275	22,248	66.1	225.34
2019年3月期	33,904	20,592	59.9	208.11

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 21,980百万円 2019年3月期 20,299百万円

(注) 当社は、2018年6月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。1株当たり純資産につきましては、当該株式分割が前連結会計年度の期首に実施されたと仮定し算定しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	6.50	—	9.50	16.00
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	63,147	5.7	7,865	14.0	7,622	13.7	5,140	12.1	52.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 — 社 （社名） 、 除外 — 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無
- ② ①以外の会計方針の変更： 無
- ③ 会計上の見積りの変更： 無
- ④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	112,720,000 株	2019年3月期	112,720,000 株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	15,178,211 株	2019年3月期	15,178,211 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	97,541,789 株	2019年3月期2Q	97,541,840 株

(注)

1. 当社は、2018年6月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。株式数は、当該株式分割が前連結会計年度の期首に実施されたと仮定し算定しております。
2. 当社は、株式報酬制度を導入しており、期末自己株式数に「取締役向け株式交付信託」及び「執行役員向け株式交付信託」の信託財産として日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）が保有する当社株式（2020年3月期2Q 410,400株）が含まれております。また、期中平均株式数についても、当該株式を考慮して計算しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12
(1) 生産実績	12
(2) 受注実績	12
(3) 販売実績	12

※当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催いたします。説明会で配布する資料は説明会開催後速やかに当社ホームページにて掲載する予定です。

・2019年11月6日（水）・・・・・・機関投資家・アナリスト向け会社説明会

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで。以下、「当第2四半期」という。）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続き、個人消費や設備投資などの内需は底堅く推移したものの、米中貿易摩擦の激化に伴う世界経済の不透明感が引き続き重荷となりました。

このような状況のもと、当社グループは、5年後の2024年3月期に連結売上高1,010億円、営業利益152億円、生産性を20%向上させて営業利益率15%、ROE25%の達成を目標とする新中期経営計画をスタートさせました。この目標の達成に向けて、「データ経営」（*1）を経営の大方針とし、営業強化、自社商材・自社サービスの拡充、成長分野への集中投資、既存事業のスクラップアンドビルドを行うとともに、米国での投資育成事業であるIoTビジネスと暗号化セキュリティ事業を通じて海外事業への積極展開を推進しております。

ソリューションデザイン事業は、引き続き大きな成長が見込まれる、車載、ネットビジネス、IoT、ロボット/AI、業務システムの分野の拡大に注力し、ニアショア開発・オフショア開発の一層の活用による更なる受注拡大と収益性の向上に取り組んでおります。

フレームワークデザイン事業は、基幹システムの刷新に伴う開発や業務自動化ソリューションに伴うライセンス販売、導入支援、開発支援など今後拡大の見込まれる収益性の高い案件への積極的な展開を行っております。

ITサービス事業は、企業の新たなIT投資の恩恵を受け、業務範囲が大幅に拡大する中、より顧客のビジネス成長に直結した高付加価値サービスの提供にシフトすることで、事業の拡大と収益性の向上に繋げております。

ソリューション営業部門は、引き続き好調なシステムインテグレーション事業に注力するとともに、各本部と連携しサービスメニューと自社商材の拡充を図り、システム設計から開発・構築・保守運用に至るまでのワンストップサービスの提供を強化しております。

ストック型ビジネスの推進を担う新企隊本部は、自社商材『Canbus. \キャンバスドット』、『Cloudstep』の機能拡張、Webマーケティングによる販売促進を積極的に展開する一方で、IoT、セキュリティ、ブロックチェーンをキーワードとした商材開発と国内外の子会社やベンチャー企業との協業を推進して、グローバルでの販売に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期の連結業績は、売上高31,411百万円（前年同期比15.4%増）、営業利益4,109百万円（同27.0%増）、経常利益3,961百万円（同26.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,680百万円（同27.9%増）となりました。

（*1）データ経営とは、顧客ニーズの早期把握と事業のより効果的なスクラップアンドビルドを迅速に行うために、精度の高い原価管理とリアルな損益を早期掌握し、経営判断に活用すること。これを実現するには日々の事業活動で発生する膨大なデータに基づく統計的な思慮による経営が必要であり、当社では自社開発したCanbus. プラットフォームで構築したIT経営システムを使ってデータ経営を実現します。

なお、第1四半期連結会計期間において経営管理区分を見直し、「コンシューマサービス事業」に区分されていた株式会社GaYaの事業とそれ以外の事業を、「投資育成事業」と「ソリューションデザイン事業」に区分変更しております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高または振替高を含めております。また、前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

①ソリューションデザイン事業

ソリューションデザイン事業は、「車載」、「社会インフラ」、「ネットビジネス」、「スマートデバイス/ロボット/AI」および「業務システム」の5つのカテゴリーに区分しており、当事業の売上高は11,373百万円（前年同期比13.6%増）、営業利益は2,153百万円（同25.9%増）となりました。

（車載）

自動運転、車載インフォテインメント、テレマティクス（*2）およびECU（電子制御ユニット）の開発といった車載分野では、得意とする車載インフォテインメント関連に加え、当社の強みである通信をキーワードに、ITS（高度道路交通システム）に関わるアプリケーション開発やモビリティサービスに関わる新たな領域で受注を獲得しております。

当分野は長期的な重点注力分野として、自動車開発において重要なISO26262（*3）の取得、MONETコンソーシアム（*4）への参加を通じてモビリティ分野での更なる存在価値の向上を目指してまいります。

- (*2) テレマティクス (Telematics) とは、テレコミュニケーション (Telecommunication) とインフォマティクス (Informatics) から作られた造語で、自動車などの移動体に携帯電話などの移動体通信システムを利用してサービスを提供することの総称。
- (*3) ISO26262とは、自動車の電気/電子に関する機能安全についての国際規格のこと。
- (*4) MONETコンソーシアムとは、次世代モビリティサービスの推進と移動における社会課題の解決や新たな価値創造を目的にソフトバンク株式会社とトヨタ自動車株式会社の共同出資会社であるMONET Technologies株式会社が設立したコンソーシアムのこと。

(社会インフラ)

電力、交通、航空、宇宙、防衛、通信など、生活を支えるシステムに関わる分野では、5G通信のインフラ整備やIoT機器を活用したスマート駐車場、スマートガスなど収益性の高い分野へ経営資源を移動した結果、売上を大きく伸ばしました。

(ネットビジネス)

通信キャリア、eコマース、教育など、ネットビジネスに関わる分野では、消費税増税に伴うキャッシュレス決済の需要増加を受け、関連するシステム開発、検証で売上を拡大しております。また、5Gに向けたサービスの改修および新規開発・評価業務で売上を伸ばしました。

(スマートデバイス/ロボット/AI)

スマートフォン、家電、ロボットなど、プロダクト開発に関わる分野では、減少するスマートフォンの開発業務からは撤退して品質検証業務に特化するとともに、「ロボット・情報家電」、「人工知能 (AI)」、「IoT関連機器」の開発業務へのシフトを推進しております。特に「ロボット・情報家電」に関わる分野では、得意とするコミュニケーションロボットの開発・検証に加え、省人力化に向けた業務用途のロボットなどの新たな分野で受注を拡大しております。

(業務システム)

業務システムの分野は、企業の生産性向上・業務効率化の実現に向けて需要が益々増加しております。引き続き、従来のスクラッチ開発に加えて、OSS (Open Source Software) や自動化を活用した短納期・低コストのサービスを提供し、「デジタルトランスフォーメーション (DX: ITの浸透により生活やビジネスなどあらゆる面が向上するという概念)」の実現を含む顧客課題を柔軟に解決することで大きく売上を伸ばしました。

②フレームワークデザイン事業

当事業は、既存顧客を中心とした金融分野と、業務自動化ソリューションを中心とした新規サービス分野にカテゴライズし、双方の顧客ニーズを捉えて受注拡大に繋げております。

既存金融分野は、前期から続く大型保険システム開発の維持および新規の金融、保険、業務システム開発が順調に進み、堅調に推移しました。

新規サービス分野では、前期からの施策として業務自動化ソリューションの商材を拡張したことによりライセンス販売が拡大、それに伴う導入支援、開発支援等も増加し受注が拡大しました。

これらの結果、当事業の売上高は2,804百万円 (前年同期比10.2%増)、営業利益は503百万円 (同30.1%増) となりました。

③ITサービス事業

あらゆるものがインターネットにつながりITが新たな価値を生み出す潮流が加速する中、「業務改革」、「スマートデバイスの活用」といった企業が抱えるクリティカルな問題の解決は、ITなくしては実現できず、企業の新たなIT投資は伸長傾向にあります。

このような市場環境のもと、システムの運用・保守、ユーザーサポートを主な業務とする当事業は、人材動員力を強みとした「ヘルプデスク」、「システムオペレーター」などの従来の派遣型サービスから、「ITサポート」、「ITインフラ構築」といった請負型業務へのシフトに加え、顧客のプロフィット部門を中心に戦略的IT活用を支援する「PMO」に注力した結果、高付加価値案件の受注が拡大しました。

また、働き方改革に対応した「AIチャットボット」、「RPA」の導入支援、「ITトレーニング」をはじめ、情報セキュリティに対するリスクマネジメントとしての「セキュリティ環境導入支援・ヒューマンウェア対策・教育」やWindows7のサポート終了を見据えた「Windows10移行」、「スマートデバイス導入」を営業フックに新規顧客を開拓しました。

さらに、事業拡大に不可欠な人材の拡充に関しても、採用手法の多様化により順調に推移しました。

これらの結果、当事業の売上高は4,117百万円（前年同期比11.2%増）、営業利益は564百万円（同13.7%増）となりました。

④ソリューション営業

IT関連商品の法人向け販売および外資・中堅企業向けを中心としたシステムインテグレーションを主な業務とする当事業は、「ITを活用した生産性の向上」、「働き方改革」をキーワードにモバイル、セキュリティ、そしてクラウドを中心とした需要を喚起するソリューションの構築、更には部門間連携の強化に取り組みました。

具体的には、モバイルPC＋クラウドソリューションサービスの提案およびクラウドとオンプレミスサーバーによるハイブリッド環境のサービス強化を推進しました。

こうした中、Windows7搭載機のサポート終了、働き方改革関連法の施行、消費税増税などに伴う市場の需要を捉え、PCの販売台数は前年同期に比べ高い伸びとなりました。

更には開発を含むシステムの一括案件など多くのサーバーソリューションを獲得したことにより、計画を上回ることができました。

これらの結果、当事業の売上高は12,407百万円（前年同期比20.5%増）、営業利益は810百万円（同41.8%増）となりました。

⑤クラウド事業

企業等にクラウドソリューションや自社開発商品を提供する当事業は、「G Suite」や「Microsoft Office 365」と連携するグループウェア『Cloudstep（*5）』を中心とした戦略を推進しました。特に当社の強みの一つであるシステムインテグレーションが求められる大型案件において、競合他社との差別化に成功し受注に至っております。

また、DXを実現するビジネスアプリプラットフォーム『Canbus. \キャンバスドット（*5）』は、スタートアップ企業や働き方改革などDXを推進する大手企業の部門からの引き合いを多くいただき、受注が堅調に推移しております。特に他システムからのリプレース案件が多く、システムインテグレーションが求められる案件を数多く受注しました。今後も注力商材として積極投資と営業強化を推進してまいります。

これらの結果、当事業の売上高は682百万円（前年同期比25.0%増）、営業利益は111百万円（同11.4%増）となりました。

（*5）『Cloudstep』、『Canbus. \キャンバスドット』は、システナの自社開発商品です。

⑥海外事業

米国子会社は、大手製造業既存顧客からの追加受注に加え、前期末に新規取引が始まった東海岸の日系企業から、新たに技術サポート案件も獲得しました。

また、米国子会社とPlasma社との合弁会社ONE Tech社は、新規IoT案件をカリフォルニアの日系企業から受注しました。引き続き在米日系企業からのIoT系案件の引き合いも増えており、米国をはじめとするグローバルでのIoT受注については、今後もPlasma社、ONE Tech社と連携してまいります。

さらに、世界各国の中央銀行、大手金融機関、軍事機関など、グローバルで多くの導入実績があるStrongKey社の「暗号化と次世代認証セキュリティ・ソリューション『Tellaro』」に関しては、CCPA（*6）の2020年1月施行を前に問い合わせが増えており、今下期からの日本での販売本格化に向けて、日本語化や日本仕様の追加開発、マニュアル整備および営業戦略の立案を行い、マーケティング活動に注力しております。これらをテコとして、日本のみならず、アジア・米国での共同ビジネスに弾みをつけてまいります。

当事業は未だ投資の段階であり、売上高は55百万円（前年同期比4.3%増）、営業損失は24百万円（前年同期は営業損失20百万円）となりました。

（*6）CCPAとは「California Consumer Privacy Act」の略で、消費者に自身の個人情報の取扱いをコントロールする権利を与えるためのカリフォルニアの州法。対象はカリフォルニア内の企業だけにとどまらず、一定の売上（\$25百万）を上げており、かつカリフォルニア州民の個人情報（名刺やメールアドレスなどを含む）などを取得したことがある企業は対象となる。

⑦投資育成事業

株式会社インターネットオブシングスは、『Canbus.』の顧客向けに、IoTでIT経営を実現するためのデータ活用アプリケーション（Canbus. スマートフォンアプリ）の開発を行っております。当第2四半期においては、企業内のデータを『Canbus.』に取り込むためのIoTセンサーを活用して、食品流通、食品製造現場向けにHACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point、危害分析重要管理点）の管理を行うサービスを開発し、収益化を推進しております。

スマートフォン向けゲームコンテンツの開発・運営を行う株式会社GaYaは、自社開発したSNSゲームを大手SNSサイトへ提供するとともに、他社が開発・リリースしたゲームの運営も受託しております。今期からゲーム以外のシステム設計・開発も受注するべく、海外オフショアとの連携強化を図っております。当第2四半期においては、タブレット端末を利用した会員申込システムの開発案件に対し、システナのソリューションデザイン本部と共に提案・参画を行いました。またコンテンツ事業においては来期へ向けた新規タイトルの開発に着手しました。

これらの結果、当事業の売上高は109百万円(前年同期比△44.1%減)、営業損失は8百万円(前年同期は営業損失8百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は33,275百万円(前期末は33,904百万円)となり、前期末と比較して629百万円の減少となりました。流動資産は28,606百万円(前期末は29,166百万円)となり、前期末と比較して560百万円の減少となりました。これは主に受取手形及び売掛金720百万円の減少、商品246百万円の減少、現金及び預金363百万円の増加によるものであります。固定資産は4,669百万円(前期末は4,738百万円)となり、前期末と比較して69百万円の減少となりました。有形固定資産は643百万円(前期末は588百万円)となり、前期末と比較して55百万円の増加となりました。無形固定資産は302百万円(前期末は307百万円)となり、前期末と比較して4百万円の減少となりました。投資その他の資産は3,722百万円(前期末は3,842百万円)となり、前期末と比較して119百万円の減少となりました。これは主に繰延税金資産175百万円の減少、敷金及び保証金46百万円の増加によるものであります。

(負債)

負債の合計は11,026百万円(前期末は13,312百万円)となり、前期末と比較して2,286百万円の減少となりました。これは主に買掛金1,078百万円の減少、未払法人税等574百万円の減少、賞与引当金515百万円の減少によるものであります。

(純資産)

純資産は22,248百万円(前期末は20,592百万円)となり、前期末と比較して1,656百万円の増加となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益2,680百万円、剰余金の配当926百万円によるものであります。自己資本比率につきましては、前期末と比較して6.2ポイント上昇し66.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の通期連結業績予想につきましては、2019年5月9日公表の業績予想から変更はありません。今後、業績予想の修正が生じる場合は速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,376	14,740
受取手形及び売掛金	13,486	12,766
商品	899	652
仕掛品	7	8
その他	397	438
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	29,166	28,606
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	232	241
工具、器具及び備品(純額)	280	330
土地	36	36
その他(純額)	39	35
有形固定資産合計	588	643
無形固定資産		
ソフトウェア	31	26
ソフトウェア仮勘定	274	274
その他	2	2
無形固定資産合計	307	302
投資その他の資産		
投資有価証券	2,312	2,316
敷金及び保証金	788	835
繰延税金資産	707	531
その他	32	38
投資その他の資産合計	3,842	3,722
固定資産合計	4,738	4,669
資産合計	33,904	33,275

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,056	4,978
短期借入金	1,550	1,550
未払金及び未払費用	1,547	1,556
未払法人税等	1,853	1,279
賞与引当金	1,494	978
その他	725	588
流動負債合計	13,227	10,931
固定負債		
株式報酬引当金	—	10
その他	85	84
固定負債合計	85	94
負債合計	13,312	11,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,513	1,513
資本剰余金	5,390	6,044
利益剰余金	16,667	18,421
自己株式	△3,155	△3,809
株主資本合計	20,416	22,170
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△62	△87
為替換算調整勘定	△54	△102
その他の包括利益累計額合計	△117	△189
非支配株主持分	292	267
純資産合計	20,592	22,248
負債純資産合計	33,904	33,275

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	27,210	31,411
売上原価	21,163	24,283
売上総利益	6,047	7,128
販売費及び一般管理費	2,811	3,019
営業利益	3,235	4,109
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	2
投資有価証券売却益	1	—
助成金収入	8	7
受取手数料	4	3
その他	6	3
営業外収益合計	24	17
営業外費用		
支払利息	3	3
持分法による投資損失	120	131
その他	3	30
営業外費用合計	128	165
経常利益	3,131	3,961
特別損失		
会員権評価損	7	—
特別損失合計	7	—
税金等調整前四半期純利益	3,124	3,961
法人税、住民税及び事業税	720	1,118
法人税等調整額	312	186
法人税等合計	1,033	1,305
四半期純利益	2,090	2,655
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△5	△24
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,096	2,680

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	2,090	2,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△84	△25
為替換算調整勘定	16	△16
持分法適用会社に対する持分相当額	88	△30
その他の包括利益合計	21	△72
四半期包括利益	2,111	2,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,117	2,607
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	△24

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,124	3,961
減価償却費	84	93
持分法による投資損益 (△は益)	120	131
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△182	△515
株式報酬引当金の増減額 (△は減少)	—	10
受取利息及び受取配当金	△2	△2
支払利息	3	3
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1	25
売上債権の増減額 (△は増加)	2,414	732
たな卸資産の増減額 (△は増加)	635	245
未収入金の増減額 (△は増加)	△588	△2
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,136	△1,078
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	53	△48
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△269	△56
その他	49	△137
小計	4,304	3,360
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	△3	△3
法人税等の支払額	△701	△1,692
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,602	1,666
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
有形及び無形固定資産の取得による支出	△253	△88
投資有価証券の取得による支出	△327	△703
投資有価証券の売却による収入	71	475
敷金及び保証金の差入による支出	△24	△48
敷金及び保証金の回収による収入	7	1
その他の支出	△1	△1
その他の収入	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△527	△363
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△739
自己株式の売却による収入	—	739
非支配株主への配当金の支払額	△2	—
配当金の支払額	△608	△926
財務活動によるキャッシュ・フロー	△610	△926
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	△12
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,481	364
現金及び現金同等物の期首残高	9,357	14,180
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,838	14,544

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ソリューション デザイン事業	フレームワ ークデザイン事 業	ITサービス 事業	ソリューション 営業	クラウド事業	海外事業	投資育成事業	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
売上高									
外部顧客への 売上高	9,938	2,545	3,646	10,297	542	44	194	-	27,210
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	74	0	54	2	3	8	-	△143	-
計	10,012	2,546	3,701	10,299	545	53	194	△143	27,210
セグメント利益 又は損失(△)	1,709	386	496	571	100	△20	△8	-	3,235

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ソリューション デザイン事業	フレームワ ークデザイン事 業	ITサービス 事業	ソリューション 営業	クラウド事業	海外事業	投資育成事業	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)
売上高									
外部顧客への 売上高	11,345	2,804	4,042	12,398	676	38	105	-	31,411
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	27	0	74	8	5	17	3	△137	-
計	11,373	2,804	4,117	12,407	682	55	109	△137	31,411
セグメント利益 又は損失(△)	2,153	503	564	810	111	△24	△8	-	4,109

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において経営管理区分を見直し、「コンシューマサービス事業」に区分されていた株式会社GaYaの事業とそれ以外の事業を、「投資育成事業」と「ソリューションデザイン事業」に区分変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

第1四半期連結会計期間において経営管理区分を見直し、「コンシューマサービス事業」に区分されていた株式会社GaYaの事業とそれ以外の事業を、「投資育成事業」と「ソリューションデザイン事業」に区分変更しております。

なお、前年同四半期比については変更後の報告セグメントに組替えたうえで算定しております。

(1) 生産実績

当第2四半期連結累計期間のセグメント別生産実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
ソリューションデザイン事業	7,829	111.1
フレームワークデザイン事業	1,983	108.0
ITサービス事業	2,977	110.8
合計	12,790	110.5

(注) 1. 当社グループ内において、サービスの性格上受注生産活動を伴うセグメントのみ示しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 上記の金額は、製造原価で記載しております。

(2) 受注実績

当第2四半期連結累計期間のセグメント別受注実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
ソリューションデザイン事業	10,985	101.0	5,587	103.2
フレームワークデザイン事業	2,808	113.2	2,449	114.9
ITサービス事業	4,178	111.3	4,150	106.2
合計	17,973	105.0	12,187	106.4

(注) 1. 当社グループ内において、サービスの性格上受注生産活動を伴うセグメントのみ示しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結累計期間のセグメント別販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
ソリューションデザイン事業	11,345	114.2
フレームワークデザイン事業	2,804	110.2
ITサービス事業	4,042	110.9
ソリューション営業	12,398	120.4
クラウド事業	676	124.8
海外事業	38	85.3
投資育成事業	105	54.3
合計	31,411	115.4

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。